

○計画期間：平成28年7月～令和5年3月（6年9カ月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成28年7月以降、認定基本計画に基づき、「粋活タウン 青梅宿 ～絆と歴史や自然を活かした 住みやすく、訪れたいなるまち～」を基本理念として、青梅駅周辺および東青梅駅周辺を中心市街地と位置づけ、「子育て世代から高齢者まで、みんなが健やかに暮らせるまち」、「住む人、訪れる人が行き交うにぎわいのあるまち」、「青梅宿の歴史と多摩川や永山丘陵の自然にふれながらぶらり歩けるまち」の3つの方針のもと、中心市街地活性化の目標達成を図るための各種事業に取り組んでいる。

本市の中心市街地は、江戸時代に宿場町として栄えた青梅駅周辺を中心とした西多摩地域の拠点となる商業集積地と、公共施設が集積した東青梅駅周辺を核として発展してきたが、近年、モータリゼーションの進展や消費者ニーズの多様化に伴い郊外のロードサイド型店舗へと買い物客が流出する傾向にある。また、商業者の高齢化や後継者不足も重なり、商業機能の低下が進み、地域に根づいた趣のある商店や飲食店などが廃業し、青梅の個性を支えてきた歴史的な街なみが失われかけている。さらに、住民の高齢化、子育て世代の空洞化も相まって地域の活力も低下している。

中心市街地活性化の目標としては「街なか居住の促進」「経済活力の向上」「回遊性の向上」の3点を掲げており、それぞれ以下のとおり取組を進めているところである。

「街なか居住の促進」のための取組として、地域住民による青梅駅前の再開発事業を支援し、定住人口の増加と商店街の活性化を図る等、街なか居住支援を充実させている。

「経済活力の向上」のための取組として、空き店舗対策である株式会社まちづくり青梅によるアキテンポ不動産事業、青梅商工会議所によるおうめ創業支援センターの設置、入店特典のあるチャレンジショップ事業の実施など、連鎖的な開業支援により、近年では中心市街地における店舗数が増加している。

「回遊性の向上」のための取組として、中心市街地周辺に存在する歴史的建造物や自然環境などの様々な地域資源を活用し、まちなかをめぐりながら楽しむことのできる環境を整備するとともに、青梅駅前の周辺に訪日外国人観光客向けの拠点を整備し、訪日外国人観光客対応の充実を図り、平成31年度には新生涯学習施設が開館する等、交流人口の増加を目指している。

令和3年度には、当初の計画期間を令和5年3月まで1年間延長した上で計画事業について8事業増加する、という内容の計画変更を行ったところであり、中でも、映画館「シネマネコ」のオープンは大きな効果を発揮している。中心市街地の新規出店数も「9件」と高い水準であり、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により厳しい状況となっている計画目標数値を達成するため、令和4年度も引き続き計画事業を推進する。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)	令和3年度 (6年目)
人口	5,199人	5,098人	5,027人	4,938人	4,911人	4,845人
人口増減数	▲55人	▲101人	▲71人	▲89人	▲27人	▲66人
自然増減数	—	—	—	—	—	—
社会増減数	—	—	—	—	—	—
転入者数	—	—	—	—	—	—

※市ホームページの統計情報を基に作成。

(2) 地価

(単位：円/㎡)

		平成28年度 【H29.1.1】 (1年目)	平成29年度 【H30.1.1】 (2年目)	平成30年度 【H31.1.1】 (3年目)	令和元年度 【R2.1.1】 (4年目)	令和2年度 【R3.1.1】 (5年目)	令和3年度 【R4.1.1】 (5年目)
中心市街地 商業地域	中心市街地 商業地域平均	155,500	155,500	155,500	155,500	151,500	151,000
	青梅市西分町 2-49-1	129,000	129,000	129,000	129,000	126,000	126,000
	青梅市東青梅 1-4-3	182,000	182,000	182,000	182,000	177,000	176,000

※国土交通省地価公示より。(青梅市中心市街地に該当するエリアは2か所のみ)

**2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

令和3年度の協議会については、令和3年4月(新型コロナウイルス感染拡大の影響により書面会議)および令和3年11月に開催された。

令和3年度内に計画期間延長等の計画変更を検討していたことから、当該変更内容(案)についての協議を行い、協議会としても「青梅市の中心市街地を活性化させる計画として、妥当である」という旨の意見であった。

その他、青梅織物工業協同組合からは同組合が保有する国有形文化財を活用して映画館「シネマネコ」が令和3年6月にオープンしたことが報告され、地元商店会もコロナ禍に配慮しながら各種イベントを実施することが報告されるなど、厳しい状況の中、基本計画目標の達成に向け、積極的に事業が推進されていることを確認した。

また、(株)まちづくり青梅からは、コロナ禍でおうめマルシェが開催できない場合にも商品を購入することができるよう、中心市街地内に商品の自動販売機を設置し、「jihan de おうめマルシェ」として令和3年8月にスタートしたこと、(株)まちづくり青梅がサブリースで賃貸している物件を使用した民泊事業が同じく8月にリニューアルオープンし、稼働率が非常に良いこと、コロナ禍以降に青梅市での創業・移住を希望する問合

せが非常に多く増えていること、等の報告があった。

一方、(株)まちづくり青梅の駐車場事業については、徐々に回復しつつもまだコロナ禍以前の駐車台数まで戻っていない、という実情も報告された。

以上のように様々な事業が推進されている中、協議会の意見としても、中心市街地の中に確実に結果が出てきているところであり、今後も色々な事業を実施して成果を上げていけるように取り組んでいきたい、と内容を評価するものであった。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
街なか居住の促進	居住人口	5,199人 (H27)	5,271人 (R4)	4,845人 (R3)	C	②	②
経済活力の向上	新規出店数	14件 (年間平均 4.7件) (H24-26)	46件 (年間平均 7.7件) (H28-R4)	50件 (年間平均 8.3件) (H28-R3)	A	①	①
回遊性の向上	観光案内所 来所者数	71.2人/日 (H26)	94人/日 (R4)	92.3人/日 (R3)	B	①	①
	Wi-Fi 接続数 (参考指標)	55件/月 (H28.4)	接続数の 増加	1,359件 /月 (R4.3)	A	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### ■居住人口

これまでの人口推移のトレンドから、前年度に引き続き最新値においても減少した。

現在、民間の再開発組合により進められている青梅駅前地区市街地再開発事業において約110戸の住宅整備が想定されることから、引き続き事業の進捗状況を把握しながら今後も市が支援を行う。また、令和3年度末の計画変更により、移住・定住に効果を見込んだ事業を複数追加し、中心市街地の居住人口の増加を図ることとしている。

今後も目標の達成を目指すものの、上記の再開発事業が令和3年度末時点ではまだ着工に至っていないこと等の理由により、現実的には現行の計画期間である令和4年度末までに目標を達成することが厳しい見通しとなっている。

#### ■新規出店数

「アキテンポ不動産事業」により、空き店舗を活用した多くの開業実績がある状況。

また、物件契約と並行して、おうめ創業支援センターでの開業支援、市の空き店舗活用補助金等の利用について連携を図り、開業がスムーズに進められるようサポートを行っている。また、開業者の希望する物件の傾向に合わせて、中心市街地の不動産事業者と相互に物件を紹介するなど、複数の事業主体が連携して動く相乗効果により実績を重ね、令和3年度末時点で目標値を達成した。

## ■観光案内所来所者数

最新値において92.3人/日となり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた令和2年度の52.0人/日から大きく回復し、基準値71.2人/日を上回った。

令和4年度には、さらに情勢が回復することが見込まれること、計画変更により複数の新規事業（映画館「シネマネコ」のオープンに関する事業等）を新たに追加したことなど、様々な側面から目標値94人/日を達成することが見込まれる。

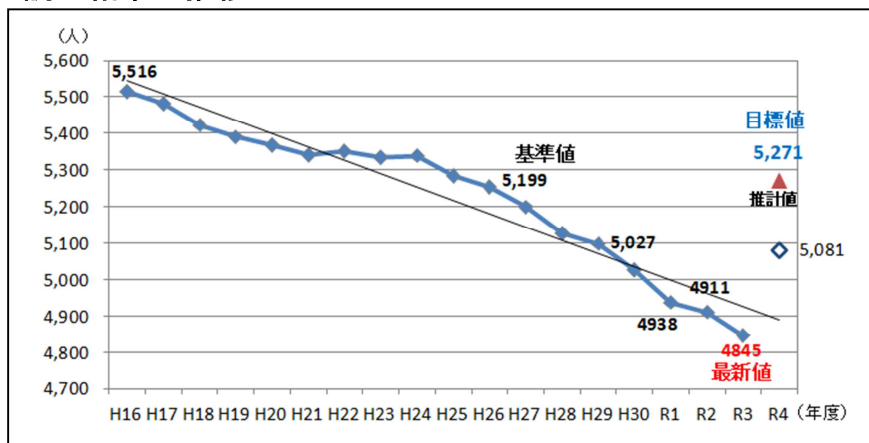
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「居住人口」※目標値設定の考え方は基本計画P.60～P.61参照

#### ●調査結果の推移



年	(単位)
H27	5,199 (基準年値)
H28	5,128
H29	5,098
H30	5,027
R1	4,938
R2	4,911
R3	4,845
R4	5,271 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳から集計

※調査月：令和4年1月

※調査主体：青梅市

※調査対象：中心市街地内の人口

#### <分析内容>

中心市街地の居住人口については、毎年減少を続けており、計画期間終了の令和5年3月においても目標値を下回る見込みとなっている。

計画開始年の平成28年1月1日現在（5,199人）に比べ、令和4年1月1日現在（4,845人）の人数は93.2%程度に減少しているが、この間の青梅市全体の割合も95.9%（平成28年1月1日現在：136,750人、令和4年1月1日現在：131,124）であり、市全体として人口減少が起こっているところである。市としては近年、高齢化率が31.3%（令和4年1月1日現在）と高い水準であり、自然減が人口減少の大きな要因となっている。市東部と比較して高齢化率の高い中心市街地は、その影響が大きいと考えられる。また、市の社会動態の状況を見ると、人数としては概ね均衡しているものの、20代から30代前半では転出超過、60代以降は転入超過となっている。

このような中、青梅駅前地区市街地再開発事業等の事業により、中心市街地の外部から子育て世帯等を積極的に呼び込む必要があるため、引き続き事業を早急に進めなければならない。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 青梅駅前地区市街地再開発事業（青梅駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【実施中】
事業概要	青梅駅前地区（本町地区約0.5ha）での第一種市街地再開発による商業・住宅・駐車場・公共公益施設・周辺道路の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成28年度～令和4年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による居住人口の増加）：164人 事業成立性を高めるための事業計画の見直しを行ったため、当初の計画より遅れているが、平成31年4月に都市計画決定、令和3年4月に再開発組合が設立され、事業完了に向けて進行している。
事業の今後について	令和4年度には権利変換計画の認可や解体着工へ進む予定であり、今後も再開発組合による事業完了を目指す。

### ②. 旧青梅街道沿道のまちなか再生事業（株式会社まちづくり青梅）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	「アキテンポ不動産」（空き店舗・空き家のマネジメント）等によるまちなみ再生
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省） 平成30年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 中心市街地の空き家の物件調査を実施し、新規出店等のマネジメントを行い新規出店数が純増となっている。平成29年度より空き家のマネジメントとして、「アキヤ不動産事業」を開始している。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大の影響下の中で、問い合わせが増えている状況。継続して物件の開拓および調査を実施し、アキテンポ見学会の開催・物件オーナーと開業者とのマッチング支援等を行う。

### ③. マルシェ常設化事業（株式会社まちづくり青梅、民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	市有地を活用したマルシェの開催
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） スーパーマーケットの代わりとなる常設マルシェ拠点づくりを目指して、平成28年度より市有地の駐車場の一部を活用して、マーケット+商店街のまち歩き型事業を実施している。令和3年度は、4～7月、10～12

	月、3月の第3日曜日に実施した（8、9月は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止）。
事業の今後について	地域の魅力ある個々の商品や日用品を販売するマルシェを常設化し市街地における買い物利便性および回遊性の向上を図る。同時に、商品の自動販売機を設置した「jihan de おうめマルシェ」事業を推進する。
<b>④. 新生涯学習施設（仮称）整備事業（青梅市）</b>	
事業実施期間	平成28年度～令和元年度【済】
事業概要	老朽化した市民会館を解体し、多目的機能の小ホール施設等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らしにざわい再生事業）（国土交通省） 平成29年度～令和元年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 市民会館を新たな生涯学習拠点施設として整備、建替を行った。施設の完成に伴い令和元年度から施設の利用が開始された。
事業の今後について	新生涯学習施設の完成に伴い、文化芸術活動や地域活動等を通じた多様な交流事業を推進する。
<b>⑤. 空き店舗を活用した子育て支援施設の運営事業（青梅市、NPO 法人）</b>	
事業実施期間	平成28年度【済】
事業概要	コミュニティ施設の設置・運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 空き店舗を活用した「子育て広場事業」を展開し、子育て世代が暮らしやすい環境づくりを推進した。
事業の今後について	実施主体のNPO 法人としては、平成28年度に空き店舗の活用を終了し、現在は市内各市民センター等において子育て広場事業等を展開している。
<b>⑥. 休日夜間診療所整備事業（青梅市）【令和3年度追加】</b>	
事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	発熱患者に対応する機能を備えた休日夜間診療所を新設・運営
国の支援措置名及び支援期間	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（内閣府） 令和3年度～
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 令和3年7月に新設された。行政サービスのさらなる集積・充実を図る。
事業の今後について	引き続き休日夜間診療所を運営することにより、行政サービスのさらなる集積・充実を図る。
<b>⑦. 移住・定住コンシェルジュ事業（青梅市）【令和3年度追加】</b>	
事業実施期間	令和4年度～【未】
事業概要	市内の移住経験者を「移住・定住コンシェルジュ」として委嘱し、青梅市へ移住を検討している方に対し、相談対応等のサポートを行う。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 令和4年度より実施する予定。
事業の今後について	令和4年度より移住・定住全体としてのシティプロモーション（情報発信）を行う予定であり、青梅市への移住・定住の促進を図る。

⑧. 「おためしおうめ生活」事業（青梅市）【令和3年度追加】

事業実施期間	令和4年度～【未】
事業概要	市内への移住を検討する方に対し、既存の市内宿泊施設の宿泊費用を補助することにより、青梅市への移住の判断材料としていただく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による居住人口の増加）：26人（内数） 令和4年度より実施する予定。
事業の今後について	令和4年度より移住・定住全体としてのシティプロモーション（情報発信）を行う予定であり、青梅市への移住・定住の促進を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

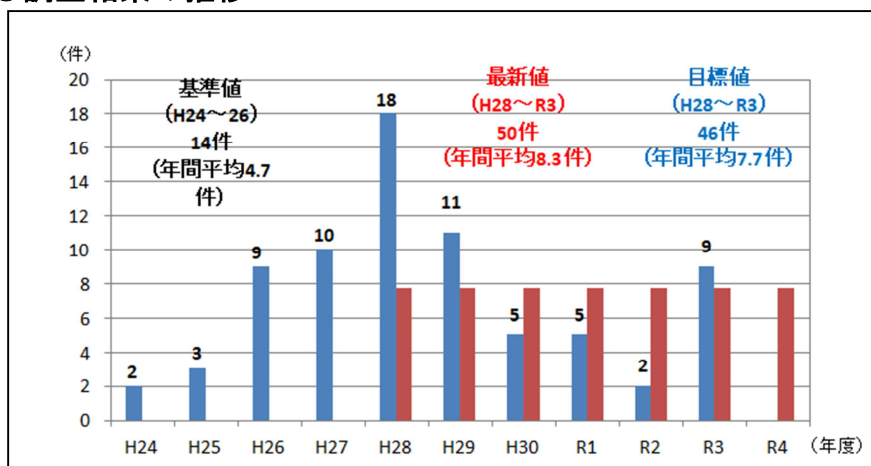
現時点では、現行の計画期間である令和4年度末までに目標を達成することが厳しい見通しとなっている。

当初の予定から遅れている青梅駅前地区市街地再開発事業の進捗状況を把握しながら、引き続き支援を行っていく。併せて、既に計画に位置付けている購買環境の魅力を高めるマルシェ事業や平成29年度より開始した居住環境の充実につながるアキテンポ不動産・アキヤ不動産事業などの事業を総合的に実施するとともに、令和3年度末の計画変更により追加した新規事業によって街なか居住を促進し、出来る限り目標達成に向けて取り組んでいきたい。



(2) 「新規出店数」 ※目標値設定の考え方は基本計画 P. 62～P. 63 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H24	14 < 年間平均
～	4.7 >
H26	(基準年値)
H28	18
H29	11
H30	5
R1	5
R2	2
R3	9
H28	46 < 年間平均
～	7.7 >
R4	(目標値)

※調査方法：中心市街地内の新規出店数を集計

※調査月：令和3年4月～令和4年3月

※調査主体：青梅商工会議所

※調査対象：中心市街地内の新規店舗

<分析内容>

新規出店数については、平成28年度～令和3年度までの実績が「50件」となり、目標値である46件を達成することができた。

主な要因としては、「旧青梅街道沿道のまちなか再生事業」の「アキテナポ不動産事業」による中心市街地での新規出店数実績（平成28年度～令和3年度：29件）が基本計画策定当初の見込み（7件）を大きく上回っていることが挙げられる。

令和2年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり新規出店数が減少したが、令和3年度に入る頃には逆に、「アキテナポ不動産事業」にも空き店舗に関する問い合わせが急増した。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響でテレワーク等が広がる中、都心から比較的近く、自然が豊かな青梅市への新規出店や移住に興味を持たれていることが要因と考えられ、令和3年度の新規出店数「9件」につながったものと分析できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旧青梅街道沿道のまちなか再生事業（株式会社まちづくり青梅）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	「アキテナポ不動産」（空き店舗・空き家のマネジメント）等によるまちなみ再生
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的的事业（経済産業省） 平成30年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による新規出店数）：7件 令和3年度は、中心市街地内の新規出店数は9件であり、うち3件がこの事業によるものである。結果が出ている事業であり、引き続きこれを推進し、まちなみの再生・活性化に取り組んでいく。

事業の今後について	継続して物件の開拓と調査を実施し、アキテンプ見学会の開催・物件オーナーと開業者とのマッチング支援等を行う。
-----------	-------------------------------------------------------

②. 青梅駅前地区市街地再開発事業（青梅駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【実施中】
事業概要	青梅駅前地区（本町地区約0.5ha）での第一種市街地再開発による商業・住宅・駐車場・公共公益施設・周辺道路の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成28年度～令和4年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による新規出店数）：7件 （内訳：スーパー1件、コンビニ1件、飲食店2件、専門店3件） 事業成立性を高めるための事業計画の見直しを行ったため、当初の計画より遅れているが、平成31年4月には都市計画決定がなされ、事業完了に向けて進行している。
事業の今後について	令和4年度には権利変換計画の認可や解体着工へ進む予定であり、今後も再開発組合による事業完了を目指す。

③. 新市民ホール等複合施設（仮称）整備事業（青梅市）

事業実施期間	平成28年度～令和4年度【実施中】
事業概要	東青梅駅南口にある市の諸事業予定地において、新市民ホールの他、官庁機能を集約した複合施設の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らしにぎわい再生事業）（国土交通省） 平成29年度～令和4年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による新規出店数）：4件 平成29年度に策定した利活用構想にもとづき、「東青梅1丁目地内諸事業用地等整備基本計画」を策定しており、市役所の臨時駐車場として利用している土地等への新施設整備に向けて、具体的な計画を策定中。この事業の波及効果により、東青梅駅周辺への飲食店、小売店等の新規出店4件が想定されている。
事業の今後について	東青梅1丁目地内諸事業用地等整備基本計画の策定に当初見込みより時間を要しており、事業が遅れているが、令和4年度には引き続き市民・有識者等との懇談会を実施する予定であり、事業完了を目指し作業を進めている。

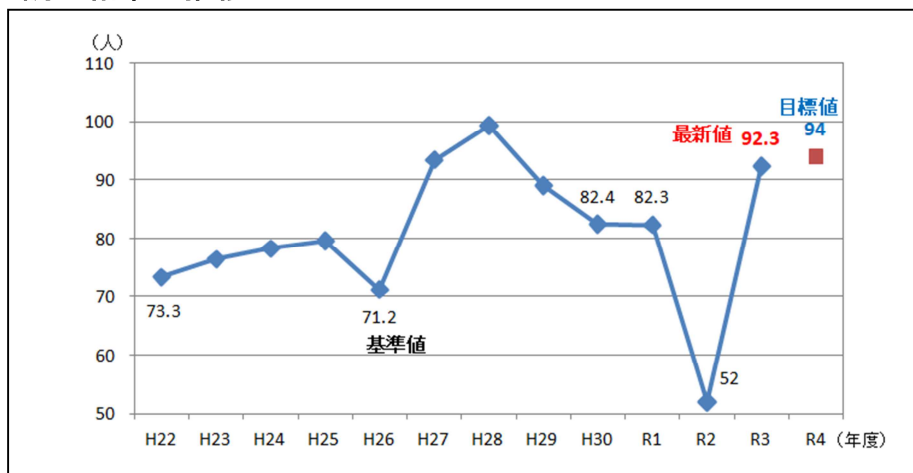
●目標達成の見通し及び今後の対策

新規出店数については、令和3年度実績が「9件」であったため、平成28年度～令和3年度までの実績が「50件」となり、目標値である46件を達成することができた。

令和3年度に増加した実績を今後も引き続きキープし、新規出店による経済活力の向上・回遊性の向上を図るため、アキテンプ不動産事業等を活用し、さらに実績を伸ばしていきたい。

(3) 「観光案内所来所者数」 ※目標値設定の考え方は基本計画 P. 63～P. 66 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H26	71.2 (基準年 値)
H28	99.3
H29	89.0
H30	82.4
R1	82.3
R2	52.0
R3	92.3
R4	94 (目標値)

※調査方法：観光案内所の休日（土・日・祝日及び年末年始）来所者数を集計

※調査月：令和3年4月～令和4年3月

※調査主体：一般社団法人青梅市観光協会

※調査対象：観光客

<分析内容>

観光案内所来所者数については、平成28年度に目標値を上回った後、平成29年度から令和元年度は「基準値以上、目標値未満」の数値で推移していた。令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響により「観光案内所来所者数」が大幅に減少したが、令和3年度には回遊性が戻ってきたことにより、数値が大きく回復した。

令和3年度も引き続き「青梅大祭」「青梅市納涼花火大会」等のイベントが中止となっている状況だが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の平成29～31年度よりも高い水準であり、令和3年6月の映画館「シネマネコ」オープンや新規出店等の影響が考えられる。

今後、情勢がより戻った上で各種イベント開催を行うことができれば、目標値以上の回遊性が期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 青梅市立郷土博物館企画展等開催事業（青梅市）

事業実施期間	昭和48年度～【実施中】
事業概要	常設展の他、企画展、文化財解説ボランティアによる解説活動、関連講座等を開催
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光案内所来所者数の増加）：5人/日 企画展等を開催することにより、1日あたり5人の観光案内所利用者数の増を見込んでいる。 ■令和2年度 ・企画展：2回、収蔵品展：2回、合計4回

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館日数：259日</li> <li>・利用者数：12,121人（46.8人/日）</li> </ul> <p>■令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展：3回、収蔵品展：1回、合計4回</li> <li>・開館日数：278日</li> <li>・利用者数：10,386人（37.4人/日）</li> </ul>
事業の今後について	郷土博物館の企画等を引き続き行い、中心市街地の回遊性の向上に努める。
②. 青梅市立美術館（青梅市立小島善太郎美術館）企画展等開催事業（青梅市）	
事業実施期間	昭和59年度～【実施中】
事業概要	常設展の他、他の美術館との共催展や、実技講座、鑑賞講座、ミュージアムコンサート等を開催
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値（当事業による観光案内所来所者数の増加）：4人/日 企画展等を開催することにより、1日あたり4人の観光案内所利用者数の増を見込んでいる。</p> <p>■令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展：3回、特別展：0回、共催展：0回、合計3回</li> <li>・開館日数：127日</li> <li>・利用者数：2,766人（21.8人/日）</li> </ul> <p>■令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展：1回、特別展：2回、共催展：1回、合計4回</li> <li>・開館日数：158日</li> <li>・利用者数：9,520人（60.3人/日）</li> </ul>
事業の今後について	美術館の企画等を引き続き行い、中心市街地の回遊性の向上に努める。
③. 津雲邸再整備による交流拠点事業（合同会社津雲）	
事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	日本庭園や茶室を備えた昭和初期の桃山建築の津雲邸を中心市街地の観光交流拠点として再整備
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値（関連事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日（内数） 津雲邸、青梅赤塚不二夫会館、昭和レトロ商品博物館、青梅織物工業協同組合施設及びこれら周辺の青梅宿のレトロな街並み等の回遊に際して、新たに観光案内所に来所する人の増加見込みは、10人/日としている。</p> <p>平成26年11月1日から「青梅宿 津雲邸」としてオープンし、資料館、カフェを運営している。美術品、歴史的資料の常設展示のほか、雛まつり展など季節ごとの企画展を開催している。また、貸しスペースとして茶会</p>

	や演奏会などの市民活動に活用されている。
事業の今後について	引き続き、様々な企画展を開催するとともに、貸しスペースとしての運用を行い、中心市街地の回遊性向上を図る。
④. 昭和レトロ商品博物館の運営事業（NPO 法人観光協会ぶらり青梅宿）	
事業実施期間	平成11年度～【実施中】
事業概要	施設の管理運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日（内数） 昭和レトロ商品博物館は、平成11年10月に元家具屋を改装し、開館した。昭和30～40年代の古い駄菓子のパッケージや古い缶、ビンなど昭和時代の品々を多数展示しており、昭和レトロのまちづくりを推進する拠点として観光客が来館している。
事業の今後について	令和4年2月には併設施設に新たに民間カフェがオープンした。引き続きTwitter等での情報発信を行いながら博物館の運営を行い、中心市街地の回遊性向上を図る。
⑤. 青梅赤塚不二夫会館の運営事業（NPO 法人観光協会ぶらり青梅宿、民間事業者）	
事業実施期間	平成15年度～令和元年度【済】
事業概要	施設の管理運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日（内数） 青梅赤塚不二夫会館は、平成15年にオープンし、昭和を代表する漫画家、赤塚不二夫の写真や漫画原稿などを多数展示しており、昭和レトロのまちづくりを推進する拠点として観光客が来館していたが、施設の老朽化に伴い令和元年度末で閉館となった。
事業の今後について	当事業は閉館のため終了だが、周辺施設等の他の事業の支援を行い、今後も中心市街地の回遊性向上を図る。
⑥. 青梅織物工業協同組合施設の保全活用（青梅織物工業協同組合）	
事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	施設の保全活用
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省） 令和2年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日（内数） 青梅織物工業協同組合の建物群（本館、旧都立繊維試験場、旧織物加工工場、旧発券倉庫）は国登録有形文化財に登録されている。これらの建物群

	を保全しながら、各施設の特徴を踏まえイベントホール、ギャラリースペース、レストラン等として活用している。 令和2年度には、旧都立繊維試験場を改築し、令和3年度6月に映画館「シネマネコ」がオープンした。
事業の今後について	映画館・飲食スペースなど集客施設として活用し、中心市街地の回遊性の向上に努める。
⑦. 青梅織物工業協同組合エリアのにぎわい創出事業（織区 123）	
事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	織物等地域資源をテーマとしたイベントの実施やエリア案内等の制作
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（関連事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日（内数） 青梅織物工業協同組合の建物群（本館、旧都立繊維試験場、旧織物加工工場、旧発券倉庫）のイベントホールやギャラリーを活用し、青梅地域の繊維産業の歴史の展示や市内の染物・織物の創作活動を行っている作家の作品展示、ワークショップを実施している。 令和2年度には、旧都立繊維試験場を改築し、令和3年度6月に映画館「シネマネコ」がオープンした。
事業の今後について	映画館・飲食スペースなど集客施設として活用し、中心市街地の回遊性の向上に努める。
⑧. 映画館整備・運営事業（シネマネコ）（民間事業者）【令和3年度追加】	
事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	国有形文化財を活用して映画館を整備・運営することにより、中心市街地のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（経済産業省） 令和2年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（⑧・⑨事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日 令和3年度6月、映画館「シネマネコ」がオープンした。
事業の今後について	引き続き、併設するカフェを含めて映画館の運営を行うことで集客数を増やし、中心市街地の回遊性向上を図る。
⑨. 東栄会商店街シールラリー事業（地域商店会（東栄会））【令和3年度追加】	
事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	映画館「シネマネコ」と連携し、商店街での買い物によりシールを貯め、シネマネコのアイテム等と交換を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（⑧・⑨事業による観光案内所来所者数の増加）：10人/日 令和3年度6月に映画館「シネマネコ」がオープンし、併せてこのシールラリーが実施されているところ。

事業の今後について	引き続き、シネマネコと連携した上で中心市街地の回遊性向上を図る。
-----------	----------------------------------

⑩. 「青梅時間プロジェクト」事業（(株)まちづくり青梅）【令和3年度追加】

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	観光案内所を兼ねたカフェ、シェアオフィス、日本式木造住宅の民泊スペースの機能を有する建物を借り上げ、整備してサブリースを行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光案内所来所者数の増加）：1人/日 令和元年度から当該物件のサブリース事業を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により休止していた民泊事業について、令和3年8月から新たな経営者によりリニューアルオープンされた。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大の影響下でありながら、民泊やカフェについても多くの利用者が戻ってきているところであり、引き続き中心市街地の回遊性向上を図る。

⑪. 地域活性化情報発信事業（民間事業者）【令和3年度追加】

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	地域密着型の情報発信イベント「MADE IN OME」（飲食・物販・音楽等）を開催し、中心市街地のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光案内所来所者数の増加）：1人/日 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントを行うことができなかった。
事業の今後について	令和4年度以降は情勢を確認しながら実施することを予定しており、イベントによる中心市街地の回遊性向上を図る。

⑫. 大学生との連携による活性化事業（民間大学）【令和3年度追加】

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	「中心市街地活性化」等をテーマとし、大学生のフィールドワークを実施。活性化策の提案や動画作成等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光案内所来所者数の増加）：1人/日 令和3年度は9月～10月にかけて、数日間のフィールドワークを行い、動画作成等を行った。
事業の今後について	今後も毎年このフィールドワークを行う予定であり、中心市街地の回遊性向上を図る。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「観光案内所来所者数」は、令和3年度の最新値においては92.3人/日となり、基準値である71.2人/日を大きく上回った。要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下での生活様式に回復傾向が見られることや、令和3年6月の映画館「シネマネコ」のオープン、新規出店数の増加等の影響が考えられる。

令和4年度には、さらなる情勢の回復が考えられること、計画変更により複数の新規事業を新たに追加したこと、再開されるイベントが考えられることから、目標値94人/日を達成する見通しである。

引き続き、目標値のみに留まらず、中心市街地全体の回遊性の向上につながる事業の実施を各団体と共に推進していきたい。